



Title	「こひ。」：映像とライブ演奏によるシネマコンサート
Author(s)	高橋, 紀子
Citation	デザイン理論. 2020, 75, p. 86-87
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/75357
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

「こひ。」

—映像とライブ演奏によるシネマコンサート—

高橋 紀子 福井工業大学



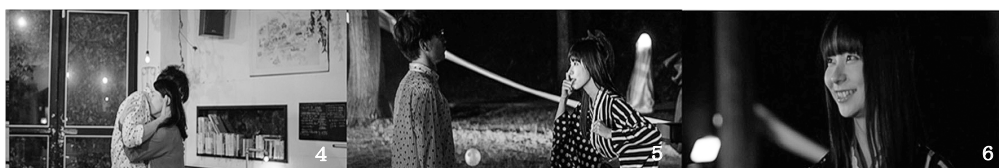
シネマコンサート「こひ。」ステージ風景

修士論文の研究課題のケーススタディとして制作した作品である。筆者が在住する福井県は「全47都道府県幸福度ランキング」(東洋経済新報社)において3年連続で1位を獲得した。一方、魅力度・イメージ・認知度など全84項目を数値化した「地域ブランド2018調査」(ブランド総合研究所)で39位と、北陸地域において最下位の結果となった。調査対象や方法が異なるとはいえ、二つの調査結果の大きな差異からは、県内在住者が感じている福井県の魅力が、県外に伝わっていない現実が見て取れる。これを踏まえ、「ひと、モノ、こと」の地域資源を活かした新たなアートを発信する環境づくりが急務であると筆者は考え、芸術企画団体「アート・メイドイン・フクイ」を設立

した。その第一弾プロジェクトとして、映像×生演奏による体感型エンタテインメントとしてのシネマコンサート「こひ。」を2018年10月6日、福井県県民ホール(定員535席=満席)にて開催した。

本作品では、「恋」をテーマに今回撮り下ろした短編映画に加え、その上映に合わせて大型スクリーンの前で生演奏するパフォーマンス芸術の形式を試みた。福井県に縁あるキャストとスタッフを招集し、福井県内のみで撮影を行い、地元の風景を背景に物語を描いた。

音楽監修・演奏は、コンサートホールでの演奏や国内外の音楽配信サイトで活動するフルート・箏・ピアノの構成によるプロの音楽ユニット「玉



1. ポスタービジュアル 2, 3. 短編映画撮影風景 4, 5, 6. 短編映画キャプチャー

響～たまゆら～| が担当した。

短編映画の脚本・監督は、東京キー局のドラマや映画の脚本家として活動している小鶴乃哩子（本名：高橋紀子＝筆者）が手掛けた。また、福井工業大学デザイン学科の学生が、美術制作やエキストラで協力した。

本作品は、福井県の地域資源である「ひと、モノ、こと」そのものにフォーカスを当て、さらに観光 PR 映像とは一線を画した〈物語〉を介在させ、デザインという手法に内在する「飛躍」を利用した新たな価値をもち出す表現を試みた。具体的には、風景から聴こえる音を音楽に置きかえ表現したほか、安易に方言に頼らず、台詞も必要最低限にとどめ、サイレント映画のような効果を狙った。

今後の課題として、福井の風景を題材にした独

自の映像表現手法を、今回のケーススタディを踏まえながら模索中である。短編とはいえ、映画には膨大な手間と資金が必要である。継続的な制作と発信のために、企画・制作・管理体制の改善についても取り組みたい。

短編映画ストーリーライン

主人公は、アコーディオンのエチカ。彼女は持ち主であるアコーディオン奏者の森田くんに恋をしている。彼は人間で、自分は楽器…。決して人間同士のように愛しても愛し合うことはできない。エチカが森田くんに想いを伝えるすべは、彼の指に応えいい音を奏でただけだった。